

## 社員・家族ならびに組合員のみなさまへ ＜ＪＲ東日本との夏季手当妥結にあたって＞

新型コロナウイルス感染症の不安と緊張の中、日々、安全・安定輸送という社会的使命を果たすためご尽力されている皆さんに敬意を表します。

去る6月10日に2020年度夏季手当の回答（2.4ヵ月＋5,000円）がＪＲ東日本より示されましたが、1990年以来30年ぶりの低額回答となりました。

国鉄労働組合は3.0ヵ月と7点からなる付帯要求を会社に提出し、延べ3回に渡り交渉を行ってきました。3.0ヵ月という要求は、私たちの生活実態等から算出した切実な要求です。そしてその支払い能力が会社にはある事（内部留保の1.6%切り崩し）を明確に指摘しながら議論を進めてきました。会社も「コロナ禍で安全・安定輸送を担っている社員に対し何らかの形で示していく」と議論経過の中で答えてきました。

しかし結果は先にも述べたように低額回答となりました。席上、我々としては「社員・家族の期待にできていない」と指摘し再考を求め持ち帰り検討としました。結果、他労組が先行妥結した中で会社の「最終回答」であることを覆すことはできないと判断し、妥結・整理することになりました。

今回の低額回答を受けて、社員の思いは二分し、コロナ禍の世間の動向や外出自粛下のご利用状況等を見た時に、「出ただけでもました」という意見もある一方、多くは「もう少し出ると思った」という意見や「夏がこんな低額では冬が心配だ」「生活ができない」といった今後の生活への不安の意見が大勢を占めていたのではないのでしょうか。

現在、多くのみなさんが労働組合に加入していない状況下で、自らの素直な思いが言えない状況です。こうした中で、重要なことは労働組合として社員・組合員の声を集約し、労働組合の要求をもとにルールに則り会社と交渉をすることであり、私たち国鉄労働組合は責任を持った労働組合としてみなさんの代弁者として今後も、会社と議論をしていきます。

本来、働く者と会社は対等ですが、数は多大に影響し、会社に思い伝えるためには、やはりみなさんの力の結集が必要です。新型コロナウイルス感染の収束が見えない中で、社員の安全を守りつつ業務運営を続けなければなりません。この難局を乗り越えていくためにも、みなさんの声をお寄せください。そして、多くの方々が我々のもとに結集していただく事を訴えます。